

7月教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和5年7月25日（火） 午後2時00分～午後4時33分
- 2 場 所 北部地区多目的研修集会施設 講座室
- 3 出席者 教育長 渡辺 宜宏
委員 西川 倫予 菅沼 泰久 山下 恵子
事務局 教育次長 (鈴木啓二) 教育総務課長 (戸田昌宏)
学校教育課長 (黒柳孝江) 幼児教育課長 (岡部考伸)
スポーツ・生涯学習課長 (竹中幹晴) 図書館長 (菅沼 稔)
教育総務課長代理(仲本真武)
学校教育課主任主査(内山さよこ)
説明員 選定委員会委員長(鈴木聖慈) 「国語・書写」説明員 (山本ゆかり)
「社会・地図」説明員 (藤井敬之) 「算数」説明員 (鈴木康弘)
「理科」説明員 (羽生和斉) 「生活」説明員 (古田善太郎)
「音楽」説明員 (辻村文美子) 「図画工作」説明員 (廣田明芳)
「家庭」説明員 (黒柳和之) 「保健」説明員 (佐原哲之)
「外国語」説明員(木戸脇佳代) 「道徳」説明員 (藤井英樹)
- 4 報 告 第30号 湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について
第31号 湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について
第32号 湖西市スポーツ推進委員会委員の委嘱について
- 5 議 案 第17号 令和6年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について

午後 2 時00分開会

(渡辺教育長) 出席は4名、定足数に達しているので、令和5年7月湖西市教育委員会定例会を開会する。

(渡辺教育長) それでは審議に入る。
報告第30号「湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について」、事務局の説明を求める。

(スポーツ・生涯学習課長) 報告第30号「湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について」、湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会設置要綱（平成19年湖西市教育委員会告示第21号）第3条の規定により、下記の者を湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会委員に委嘱又は任命したので報告する。令和5年7月25日提出 湖西市教育委員会 教育長 渡辺 宜宏。

委員会は、湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会設置要綱に基づき、委員15人以内で組織されている。委員は、要綱第3条第2項に規定されている者をもって構成され、放課後対策事業の総合的な推進を図ることを目的として設置される。放課後子ども教室と放課後児童クラブの現状など共通認識をもち、双方の一層の連携強化を図るよう務めている。今回委嘱又は任命した委員は7人で、役職者の変更に伴うものであり、任期は前任者の残任期間である令和5年7月1日から令和6年6月30日までの1年である。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 続いて、報告第31号「湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について」、事務局の説明を求める。

(スポーツ・生涯学習課長) 報告第31号「湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について」、湖西市学校支援地域本部設置要綱（平成24年湖西市教育委員会告示第6号）第4条の規定により、下記の者を湖西市学校支援地域本部運営委員会委員に委嘱又は任命したので報告する。令和5年7月25日提出 湖西市教育委員会 教育長 渡辺 宜宏。

委員会は、湖西市学校支援地域本部設置要綱に基づき、要綱第4条第2項に規定されている者をもって構成され、学校支援地域本部の推進を図ることを目的として設置される。学校支援地域本部では、学校活動に地域が参画・協力し、支援することを促進するため、地域支援コーディネーターを中心に、双方の一層の連携強化を図るよう務めている。今回委嘱又は任命した委員は3人で、役職者の変更に伴うものであり、任期は前任者の残任期間である令和5年7月1日から令和6年6月30日までの1年である。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(山下委員) 任期名簿の下の欄に記載されている任期は、元々の委員の任期ということでしょうか。

(スポーツ・生涯学習課長) そのとおりです。

(菅沼委員) 地域コーディネーターは、各小中学校に1名ということでしょうか。

(スポーツ・生涯学習課長) 実際には市内小中11校中8校に設置されている。残りの3校については、良い人材が見つからず、設置できていない状況である。

(菅沼委員) 教育委員会がお願いする形で依頼をかけるのですか。

(渡辺教育長) 学校から地域をよく知っている方に打診をして、正式に教育委員会からお願いする形をとっている。鷺津地区のように大規模校ほど見つからない現状がある。

(菅沼委員) その辺の敷居を下げるようなことをされてはどうですか

(渡辺教育長) 敷居は下げているつもりでいるが、なかなか難しい。

(山下委員) 鷺津地区以外には、どこが未設置ですか。

(スポーツ・生涯学習課長) 岡崎小学校・中学校である。

(渡辺教育長) 続いて、報告第32号「湖西市スポーツ推進委員会委員の委嘱について」、事務局の説明を求める。

(スポーツ・生涯学習課長) 報告第32号「湖西市スポーツ推進委員会委員の委嘱について」、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第32条第1項の規定により、下記の者を湖西市スポーツ推進委員会委員に委嘱したので報告する。令和5年7月25日提出
湖西市教育委員会 教育長 渡辺 宜宏。

スポーツ推進委員は、湖西市スポーツ推進委員規則第3条の規定により、25人以内の委員をもって構成することとなっている。令和5年度は当初、18人の委員によってスポーツ活動の促進に寄与し、各種事業や行事の企画運営協力を行っている。この度、スポーツ推進委員から委員としてふさわしい人材の推薦があり、スポーツ推進委員会において協議した結果、特に異論もなかったことから、新たな委員として委嘱をしたので、報告する。

今回、新たに委嘱した委員は1人で、任期は令和5年7月1日から令和6年3月31日までとなっており、今回の新任委員の委嘱により同委員会委員の構成は、鷺津地区3人、白須賀地区2人、新所地区1人、岡崎地区5人、入出地区2人、新居地区6人の構成となった。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) 委員の入れ替えは少ないのですか。

(スポーツ・生涯学習課長) 任期は2年であるが、ほとんどの委員が再任しており、長い方で40年以上の者もいる。

(渡辺教育長) 続きまして、議案第17号「令和6年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」だが、この議案審議に入る前に、本議案の審議を公開することによって、教科用図書の採択期限である8月31日前に情報が漏れるおそれ及び各委員の率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定及び湖西市教育委員会会議規則第14条第1項ただし書の規定により、本議案の審議につきましては非公開としたいと思うが、これにご異議はないか。

(異議なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、本議案の審議については非公開に決定した。

(傍聴者退席)

それでは、審議に入る。議案第17号「令和6年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」事務局の説明を求める。

(学校教育課長) 議案第17号「令和6年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」、湖西市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則(昭和31年湖西市教育委員会規則第5号)第2条第1項第15号の規定により、令和6年度湖西市立小学校において使用する教科用図書を別冊のとおり採択したいので承認を求める。令和5年7月25日提出 湖西市教育委員会教育長 渡辺宜宏。

湖西地区では、静岡県の基本方針に沿って「教科用図書選定委員会」及び「教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。選定委員会の委員には、湖西市小中学校PTA連絡会の会長ならびに理事、湖西市校長会副会長、校長会代表、学識経験者の以上5名に委嘱した。6月15日から3回の湖西地区教科書研究委員会を開催し、7月14日に行われた第2回湖西地区教科用図書選定委員会では、研究委員会からの調査報告を受け、採択案をまとめさせていただいた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和6年度から使用する教科書を決定していただきたい。

なお、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。

(渡辺教育長) ここでお諮りする。

教科用図書採択の採決については、種目ごとに調査研究報告、質疑、採択を行いたいが、これに異議ないか。

(異議なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、種目ごとに調査研究報告、質疑、採択という順番で行う。

また、事務局から、各教科の調査研究に関する報告を行うため、湖西地区教科用図書選定委員会の委員長、説明員及び補助員の入室の許可について申出があった。これを許可することに異議ないか。

(異議なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、選定委員会委員長、説明員及び補助員の入室を許可することとする。説明員の準備があるため、しばらくお待ちいただく。

それでは、まず湖西地区教科用図書選定委員会の経過について、委員長である鷺津小学校の鈴木校長に報告を求める。

(選定委員会委員長) 6月14日に第1回湖西地区教科用図書選定委員会を開催した。採択の流れや調査研究の観点などについて確認をした。委員は、学識経験者として元湖西市教育委員会教育委員の佐原陽子様、保護者代表として湖西市小中学校PTA連絡会会長の渥美真寿美様、岡崎小学校PTA会長の宮塚雄士様、校長会代表・東小の藤井千帆校長と私の5名である。7月14日には、第2回湖西地区教科用図書選定委員会を開催し、代表者から調査研究報告を受け、採択案について協議をした。採択案については、お手元の資料にまとめさせていただいている。御審議をよろしく願います。

(渡辺教育長) 続いて、教科用図書の採択に関する全体的な説明を、事務局に求める。

(学校教育課主任主査(内山)) 小中学校で使用する教科書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条とその施行令により、4年間同一のものを採択することになっている。採択の流れについては、表を確認していただきたい。

静岡県は11の採択地区に分かれており、湖西地区はその一つとなっている。湖西地区では、「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿って「湖西地区教科用図書選定委員会」及び「湖西地区教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和6年度から使用する小学校の教科書を決定していただきたいと思う。よろしく願います。

以上。

(渡辺教育長) これまでの報告及び説明について、質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) それでは、続いて各種目の代表者から調査研究の報告をしていただく。まず初めに、国語について、報告を求める。

(「国語」説明員) どの教科書も、学習指導要領の目標を達成させるための内容をもれなく指導することができるよう、単元構成や教材配列に工夫や配慮がなされているほか、児童は見通しをもって取り組むことができるよう、単元ごとに学習活動のモデルが示されている。また、児童が意欲をもち、主体的に学習活動に取り組むことができるよう、社会の動きに合った題材が取り上げられるとともに、挿絵、写真、資料などが豊富に掲載されている。加えて、児童の主体的な学び、発展的な学びを支えるためのデジタルコンテンツが充実している。5年生の教科書を例に報告させていただく。

まず、東京書籍である。単元の初めに指導事項が示されることにより、学習の見通しが立てやすくなる。児童自身が「見通す」「取り組む」「振り返る」という学習活動のどの位置にいるのか自覚できるような工夫がある。また、語彙を増やす助けになるよう274ページの「言葉の広場」や198ページの「言葉相談室」が掲載されている。

続いて、教育出版である。語彙を増やしたり定着させたりするために、多くの単元で上108ページのような「言葉を増やそう」のコーナーが配置されている。また、上109ページの「ここが大事」として明示されたコーナーが簡潔で児童にとって分かりやすいものになっている。上下巻2冊になっており、それぞれの巻末の付録が充実し、興味関心に合わせて学べるようになっている。

最後に、光村図書である。どの学年においても、児童の知的好奇心をかき立てるような幅広い話題を扱う教材が取り上げられている。単元で学んだことを、248ページ「たいせつ」のコーナーで簡潔にまとめている。続けて「いかそう」のコーナーで、他の教科や日常生活で生かすことができるよう、具体的な場面を紹介している。また、150、160ページの「読むこと」と「書くこと」、52ページのように「読むこと」のつながりで教材が配置されるなど、児童が何のために学ぶのか自覚できるよう工夫されている。

それぞれの教科書に特色があるが、光村図書の教科書は、バランスのとれた構成で、児童の主体的・対話的で深い学びに迫ることができるとともに、学ぶ楽しさを感じることができるよう工夫されているため、湖西市の児童にとって最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。令和元年度の教科書改訂のときと学習指導要領は変わっていない。現在、使用している教科書は、光村図書である。引き続きということである。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、書写について報告を求める。

(「書写」説明員) どの教科書も、小学生の発達段階を意識して、姿勢・筆記具の持ち方などの基本から、筆順、字形、配列、点画のつながりなどの学習が系統的に設定されている。また、色彩が効果的に使われ、筆の動きが分かりやすくなるよう工夫されていること、児童の学びを支えるためのデジタルコンテンツが充実していることが共通している。5年生の教科書を例に報告させていただく。

まず、東京書籍である。14ページの「書写のかぎ」で、書写で使う言葉の説明がまとめられ、学習のポイントが端的に示されている。字形の整わない文字の例を示して視覚からの理解を促したり、文字について話し合う視点を示したりする工夫がある。巻末の44ページにあるように、その学年までに学習する内容をまとめ、学びの積み重ねを自覚できるようになっている。

続いて、教育出版である。日常生活や他の教科で書写で学んだことが生かせるよう23、27ページのように「レッツ・トライ」のコーナーを設け、具体的な活用場面を紹介している。また、1年生の教科書には、書写入門期の児童が字をなぞって練習するために、なぞり書きのコーナーを多くする配慮がされている。

最後に、光村図書である。単元の初めに文字を比較して例示することで、整った文字を書くための決まりを児童が見つけ、ねらいを意識できるよう工夫されている。また、単元ごとに18ページのように「たいせつ」が、巻末の48ページのように「たいせつのまとめ」があり、筆使いや字形など系統的に学習してきた事柄が一目で分かる構成になっている。3年生は、2から13ページにわたって「毛筆スタートブック」として用具の使い方など基本的な事柄を丁寧に説明したページがある。6年生は「書写ブック」に、他の教科や日常生活で生かせるよう、6年間で学習する書写の要素がまとめられている。

それぞれの教科書に特色があるが、光村図書の教科書は、各ページの情報量が豊かで、身につけた学習内容を日常生活に生かせるよう導く工夫がされているため、湖西市の児童にとって最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、書写の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、書写の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、社会について報告を求める。

(「社会」説明員) 社会科研究委員会では4名の委員で湖西市の児童の学習をイメージしながら、採択規準となる3つの視点で、調査・研究を行った。6年生の教科書を例に報告させていただく。

まず、東京書籍である。政治・国際編と歴史編に分冊されているところが大きな特徴である。政治・国際の32から35ページのように、学習過程が「つかむ」「しらべる」「まとめる」のみならず、「ひろげる」「いかす」等の観点で構成されているため、児童が見通しをもって取り組み、見方や考え方を働かせて学習できるものになっている。また、デジタルコンテンツがたいへん充実しており、教科書とデジタルを相互に活用することで学習が深められるようになっている。さらに、政治・国際の46ページのように、他教科との関連についてもマークで示されており、児童が自らの学びを振り返ったり、広げたりするのに効果的である。

次に、教育出版である。43ページのように、人口減少など社会的に見られる諸課題について、発達段階に考慮した資料が取り上げられており、児童の社会への関心を高め、積極的な社会参画を促すことができるようになっている。78、81ページのように「この時間の問い」や「次につなげよう」が設定されており、各時間の問いが次時につながっていることを明示しており、単元を通した学習課題の追及や児童の見通しをもった課題解決の助けとなっている。

最後に、日本文教出版である。多くのQRコードが提示されており、学習に役立つ内容について、ICT機器を使って見ることができるようになっている。13、25、30ページのように「見る・調べる」「読み取る」「表現する」等、学びのヒントを確認することができ、児童が問題解決学習に必要な技能を習得するための工夫が見られる。また、30、31ページのように親しみやすい漫画やイラストなどが用いられており、すべての児童にとって分かりやすくなっている。

各社の教科書にそれぞれの良さがあるが、児童の学習にとって最も扱いやすいのは、東京書籍が適切であると考えている。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。現在、使用している教科書も、東京書籍である。引き続きということである。

(西川委員) 現在も分冊になっている東京書籍を使っているとのことで、問題はないのかもしれないが、3社の見本を見たところ、合冊の方がよいと感じた。教科書の使い方として、毎時間2冊持ってくるものなのか。

(「社会」説明員) 基本的には、学習している単元の分冊どちらかを持ってくることにしている。

(西川委員) 例えば、政治・国際を学習した際、関連した部分の歴史も振り返ってみようというような授業をしている場合は、合冊の方がよいのではと思った。実際の指導に合っているのはどちらかと思い、質問した。

(「社会」説明員) 西川委員の言うように、合冊である理由としては、政治・国際の学習のときに歴史の学習と関連させ、生かすことができるという特徴がある。指導者もその点を意識しなければならないと思う。毎回、指導者がそのような指導をしているかという、必ずしもそうではない現実がある。例えば、必要に応じて次の授業にもう1冊を持ってくるよう伝えるなど、適宜活用しているのが現状である。どちらかという、今、ランドセルの中身が重いということが課題にもなっているので、持ってくる教科書が軽い方がよいとも言える。現在、分冊を使っていて、問題はない。最も、分冊というだけで東京書籍を選んだわけではないが。

(菅沼委員) 社会は、発行者によって特徴が異なると感じた。湖西の教育のビジョンとして、例えば豊田佐吉翁や国際社会とのつながりという視点で各社を比較したとき、研究委員の意見としてはどうだったか。

(「社会」説明員) 3社どれを使っても、学習指導要領の内容を押さえた指導ができる適切な教科書だと感じている。東京書籍を選んだのは、国際政治、社会的な諸問題、児童に積極的な社会参画を促していくのが社会科の指導の目標であるが、東京書籍の資料が一番充実していると感じたからである。最新のものから古いものまで、資料が豊富であるという印象を受けた。

(山下委員) 教育出版は、単元や学習ごとのインデックスがあり、カラー写真も多くある点が良いと思った。教科書の右ページに、時代の流れが載っているため、次の学習につながるのではないかと。241ページは、どの国について調べればよいか分かりやすく、学習計画が立てやすいと思った。読んでいて、社会が楽しいなと感じた。

(「社会」説明員) 山下委員の言ったところは、教育出版の強みだと思う。例えば、220ページの写真は、教育出版はカラーだが、他の2社は白黒で掲載されている。どちらがよいか意見が分かれるところだとは思いますが、研究委員の考えとしては、やはり白黒の写真の方が、児童の想像力やイメージを湧かせやすいと思った。

(渡辺教育長)他に質疑がないようであれば、社会の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長)挙手全員である。よって、社会の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、地図について報告を求める。

(「地図」説明員)地図は、東京書籍と帝国書院の2社である。

まず、東京書籍である。7から14ページにあるように、はじめに地図の見方やきまり、使い方が丁寧に説明されている。また、「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」が70点掲載されており、子供たちの地図への関心を高めることができる。また、28ページのように、児童が理解しやすいように、都道府県名の表示は赤で見やすくなっており、文章は3年生配当以上の漢字にふりがなをついているなどの工夫が見られる。

次に、帝国書院である。7から20ページのように、巻頭において、地図とは何か、方位、地図記号、索引、縮尺について丁寧に解説されている。20ページのように地図に対する好奇心を高めるとともに、地図帳の活用方法が身に付くように「地図マスターへの道」が多数掲載されている。99から102ページのように、自然災害と防災に関する資料が充実している。さらに、55、85、109、110ページのように、歴史学習やSDGsなど、社会科の学習のみならず、幅広く活用できるようになっている。

それぞれの良さがあるが、児童の学習にとってより扱いやすく、技能を高めやすい帝国書院が湖西市の児童にとって適切であると考える。

以上。

(渡辺教育長)質疑のある方は発言するように。

(質疑なし)

(渡辺教育長)質疑がないようであれば、地図の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長)挙手全員である。よって、地図の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、算数について報告を求める。

(「算数」説明員)どの教科書にも、指導要領の一つの柱である、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを成立させようとする配慮がみられた。また、各社ともにデジタルコンテンツが充実しており、個別の学びにも配慮されていた。6年生の教科書を例に報告させていただく。

まずは、東京書籍である。各単元の前半では資質・能力を培い、後半にはそれらを生かして問題解決できる配列となっているなど、段階的・系統的に学習が進められるように工夫されている。100ページの単元の導入では、日常の事象や生活経験を取り上げたり、既習内容を振り返ったりすることで、学ぶ意欲を高めると同時に学習課題をつかみやすくなるように工夫されている。つまずきの多い問題には、デジタルコンテンツが用意され、主体的に学習が進められるようになっている。

次に、大日本図書である。学習の導入や、具体物を用いての作業などで、ウェブコンテンツが活用できるつくりとなっており、数学的な活動を通して考えたり、表現したりすることの助けとなっている。また、他教科や日常生活と関連付けて考えることができるつくりとなっており、158ページの「算数たまたばこ」やコラムなどで、身の回りの算数や学んだことを活かす場面が紹介されており、進んで活用したり、教科を横断したりできるようになっている。さらに、全学年で、学習内容と結び付けた内容のプログラミングに触れる題材がある。

次に、学校図書である。143ページの「立体の体積」の導入のように、単元の導入が日常の場面からのストーリー仕立てになっており、児童が課題意識をもちやすく、また単元を貫いためあてが明確にされ、単元の終末で解決を図る構成になっているなど、単元を通して児童が興味・関心をもつことができるように工夫されている。144ページのように、授業ごとのめあてに、「考えたいな」「表したいな」「知りたいな」「調べたいな」などの内容が表記され、主体的・対話的で深い学びを意識して学習が進められるように工夫されている。151ページの「できるようになったこと」で学習内容を確認でき、153ページのように単元末の「ふりかえろう」では、身に付けたい数学的な見方や考え方や語句が明記されている。自らの学びを振り返りながら練習問題に取り組めるようにもなっている。どの単元においても基礎・基本の内容の扱いが丁寧であり、式、筆算、文字、図、挿絵などの配列が整理されて、非常に見やすくなっている。

次に、教育出版である。全学年で、基礎的・基本的な内容の定着をめざしている。57、58ページのように、吹き出しを用いてつぶやきや疑問が提示するなど、問題解決の過程で考える手順やヒントが示されていて、問題解決に向けて児童の思考に沿って学習が進められるよう工夫されている。また、266ページの「広がる算数」では、多様な場面で学習内容を活用するきっかけを与えたり、142ページの「学んだことを使おう」では、学習内容を活かし、探究的に取り組めるような題材が用意されたりするなど、学習の成果や算数の良さを実感させる工夫もされている。

次に、啓林館である。38ページのように、学習のめあてにつながる児童の気づき、学習のめあてとそれに対応したまとめが例示されており、授業の流れやポイントが児童および教師にとって分かりやすいものとなるように工夫されている。特に、児童の気づきの例示は、学習課題や発問を考える際の大きな助けとなるなど、解決の見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりしやすいように配慮されている。232ページの巻末に「未来へのとびら～お仕事インタビュー～」を設け、算数が社会の中でどのように役立っているのかが分かり、将来の学びの意欲にもつながるよう工夫されている。

最後に、日本文教出版である。37、38ページのように、学習のめあてとそれに対応したまとめが明記され、授業の流れやポイントが児童にとって分かりやすいものとなっている。また、37ページのように児童が見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりできるような言葉が「見方・考え方」として具体的に示され、取り組みやすくなるよう工夫されている。単元末の57ページの「わかっているかな」では、「まちがいやすい問題」と「見方・考え方をみがこう」を取り上げたり、巻末の251ページでは、算数マイトライで難易度別に問題を配置したりするなど、学習事項が定着するように工夫されている。

それぞれの教科書で様々な工夫があるが、基礎・基本の内容の扱いが適切で理解されやすいように見やすく配列されているとともに、主体的で深い学びができるよう多くの工夫がある学校図書が、湖西市の児童にとって最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、算数の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、算数の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、理科について報告を求める。
(「理科」説明員) 5社ともに、児童の科学的な見方・考え方を伸ばすことをねらいとした「問題解決学習」を意識した構成となっている。また、QRコードによるICTの活用や、対話的な活動を促すことで、個別最適で協働的な学びが実現できるよう工夫されている。さらに、他学年や他教科の学習、実生活とのつながり、キャリア教育、SDGs等を意識した構成となっている。6年生の教科書を参考に、各社の特徴を報告させていただく。

まず、東京書籍である。25ページのように、各単元の最後には、単元の内容に関

連した参考資料が掲載されている。この單元では、消防隊員へのインタビュー形式のコラムを取り上げている。児童一人一人の「もっと知りたい」という知的好奇心を高め、主体的な学びを促すような構成になっている。64、65 ページには、生物の写真が掲載されており、写真の大きさを他社のものと比べると、サイズが大きいことが特徴である。これにより、生物の特徴が捉えやすくなり、児童の実感を伴った理解へと導くものになると思われる。

続いて、大日本図書である。12 ページのようにイラストの登場人物に、多様性への配慮が見られる。また、吹き出しのセリフに注目すると、文末が「…」になっており、あえて結論を示さないことで、子供の思考を深めさせようとする意図が感じられる。18、19 ページには、單元末における参考資料が掲載されている。18 ページは、身近な生活との結び付きを意識したもの、19 ページはSDGs との関連を意識したものとなっている。20 ページは、單元末の確認問題である。思考の問題に挑戦させることで、言語活動が促されるような構成になっている。

続いて、学校図書である。4 ページに「6 年で出会える理科モンスター」が設定されている。これらは、理科で身に付けたい資質・能力を表しており、子供たちの興味・関心を高めるよう工夫されている。27 ページには、「ものの燃え方」の単元のまとめとして、防災と関連させた資料を掲載している。28 ページは、練習問題で単元の振り返りができるようになっている。最後に、活用をイメージした問いが出題されており、言語活動が促されるよう工夫されている。

続いて、教育出版である。22 ページは、単元の振り返りのページである。ページ下にあるように、学習の前後で、理科の見方・考え方がどのように変化したか、この視点に注目しているところに工夫が見られる。さらに、22 ページの「ふり返ろう」と、23 ページの「確かめよう」が、見開き 2 ページで示されていることで、児童にとって使いやすい構成になっている。

最後に、啓林館である。23 ページの「スマート解説」に QR コードが掲載されている。このように、問題の解説動画を掲載しているのは啓林館だけである。児童が、つまづいた所を見直しやすくなっている。204 ページからは、巻末資料が掲載されており、基本的な学習態度に関すること、数学との関わり、理科の見方・考え方等、中学校での学びへのつながりを意識した構成になっている。

このように、各社、甲乙つけがたい状況ではあるが、資料と文字のバランス、単元の内容の全体構成等、児童にとっての使いやすさを総合的に考えて、大日本図書が、湖西市の児童にとって最適であると判断した。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(西川委員) 大日本図書は内容が分かりやすいと感じた。他社に比べると、教科書のサイズが大きい。先程、ランドセルが重いことが課題という話が出たが、大丈夫か。

(「理科」説明員) 1、2 年生は生活科で、理科は 3 年生からなので、低学年が持ち運ぶということはない。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、理科の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、理科の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、生活について報告を求める。

(「生活」説明員) 最初に、どの教科書にも共通して配慮されていることを 3 点報告する。1 点目は、内容が自分自身や身近な生活について気付き、考え、表現して、気付きの質が高まるような工夫がされていることである。また、生活上必要な習慣や技能が身に付くように配慮されている。さらに、二次元コードが各所にあり、個別最適な学びにも対応している。2 点目は、組織・配列・分量では、児童が主体的に学びに取り組むことができるように、児童が見通しをもって学べる配慮がされていることである。また、他教科との関連や中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにも配慮されている。3 点目は、児童の発達段階への配慮として、幼児教育から小学校教育へのスムーズな接続への配慮による架け橋期の教育の充実や低学年児童の学習意欲を引き出すような工夫がなされていることである。

次に、各社の特色について、上「秋みつけ」の単元を例に挙げて報告する。

まず、東京書籍である。62ページ「たのしいあきいっぱい」では、写真が大きく、鮮やかで見やすく、児童の学習意欲が高まる工夫がなされている。また、65、67ページの右上欄には、その活動を安全安心に行うための約束や学習の進め方、礼儀などを分かりやすくイラストで例示した「やくそく」があり、主体的に考えたり、学び方や人との関わり方を知ったりすることができ、必要な技能が身に付くようになっていく。さらに、二次元コードが豊富でクイズや約束事、活動例が動画や画像で紹介されており、学習の個性化が図られるように配慮されている。

続いて、大日本図書である。82ページでは、白黒写真を活用して季節の変化について児童が五感を使って考えることで、気付きの質が高められるように工夫されている。また、97ページ「きらきらことば」でのことばの紹介や伝え合う活動、教科書に直接書き込める振り返りなどが、深い学びへと導いている。さらに、96から99ページまでを使ったダイナミックなページ構成で活動を例示していて、児童が見通しをもって学びを進めることができる工夫がなされている。

続いて、学校図書である。82ページ「あきをたのしもう」では、大きくて見やすく、動きがある写真で児童の意欲を引き出すように工夫されている。また、86、87ページ「ものしりずかん」のイラストは、正確で特徴がつかみやすく、児童の興味をひくものになっている。90、91ページの「ものしりノート」には、秋にとれる素材を使った遊び道具の作り方とともに、二次元コードを活用して作成の仕方を動画で見られることもできる。巻末の「学び方図鑑」では、「話す」「聞く」「書く」といった国語科の基本的な力だけでなく、図画工作科やICT、理科の力との関連について児童がいつでも調べることができ、教科横断的な学習が常時できるようになっている。教科書全般を通して、言葉が精選されており、その分、写真やイラストが多くなっているため、低学年児童の興味関心が継続するように工夫されている。

続いて、教育出版である。65ページにYES・NOチャート「わくわくスイッチ」を設けて、児童の学習への動機付けを行う工夫がなされている。また、67ページに「ヒント」や「やくそく」があり、児童自身が生活に必要な習慣やルール、マナー、技能等を身に付けられるようになっている。さらに、単元のまとめである81ページには「ぐんぐんはしご」を設けて、学びの自己評価をすることで、メタ認知を育むことができるようになっている。巻末「学びのポケット」には、どの単元でも活用できる習慣や技能がまとめられているとともに、他教科との関連も明示されている。

続いて、光村図書である。絵本作家の親しみやすいイラストや表現により、69、71ページの「どうしてだろうなんでだろう」「こんなのもいいかもよ」で「私もそう思った。」「僕はこう思う。」と児童と一緒に考えることができるように工夫され、児童の興味関心を引き出している。また、68から71ページのように、見開きごとに「ふりかえろう」があり、学習活動を通して児童自身がどんなことを経験したか「情意の面」と「資質・能力の面」から捉え直す構成になっていて、教師側が見取りと評価に役立てることができる。また、紙質がつつるつつではないので、低学年児童でもページをめくりやすくなっている。

最後に、啓林館である。66、67ページの「わくわくタイム」では、秋の果物や葉、虫などが実物大で掲載されていて、児童の興味関心を引く工夫がされている。各単元を「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で示すことで、学びのサイクルを分かりやすく提示し、学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶことができるようになっている。78ページの「あきのずかん」の二次元コードを読み込むと、秋の虫の鳴き声を聞くこともでき、児童のもっと知りたいという意欲や個別最適な学び方に応え、学びの質を高めることができる。

どの教科書も写真やイラスト、キャラクターなどを効果的に用いて、低学年の子供たちの興味関心、学習意欲を引き出す工夫がなされていた。その中でも、学校図書は、単元構成が湖西市の小学校の学習計画に合っていて、しかも豊富な写真やイラストからより多くの気付きを生む可能性が高く、デジタルコンテンツも充実している。子供たちにとって、個別最適な学びが促されることで、より深い学びになることが期待できる。また、今年度まで同社の教科書を使用していたので、各校で教材研究が行われており、継続して使用することで、教材に対する理解がより深まり、結果的に子供たちによりよい学びを提供できるので、湖西市の児童に最適であると考えられる。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(菅沼委員) QRコードは、授業で使うことはあるのか。

(「生活」説明員) 使っている。授業後に興味をもち、自分でQRコードを読み取り、画像や動画などを見る児童もいる。タブレットを使い、学級全体でも個人でも見ることができる。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、生活の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、生活の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、音楽について報告を求める。

(「音楽」説明員) 最初に、教育出版、教育芸術社、どちらの教科書にも共通して配慮されていると思われたことを3点報告する。1点目。児童の主体的・協働的で深い学びを導くことができるよう、各題材で学習する内容が教科書の目次に分かりやすく掲載され、児童が見通しをもって学習を進められるようになっている。友達と一緒に活動したり、自分の思いや作品を伝え合ったりする場が多く設けられている。2点目。歌う、演奏する、鑑賞する、体で表現する、音楽をつくる、言葉で対話をするなど、様々な活動を取り入れており、児童が音楽のよさや楽しさを感じ取り、思いや意図をもって音楽表現ができるよう工夫されている。3点目。二次元コードが充実しており、曲を聴いたり、ワークシートをダウンロードしたり、音楽をつくって再生したりすることができる。

次に、各教科書の特色について報告する。

まず、教育出版である。1年生の教科書の目次と2から3ページ「学習マップ」を開いていただきたい。各題材で学習する内容が色分けされており、イラストや写真を使って、分かりやすく掲載されている。児童が見通しをもつことができ、主体的な学びを促している。6から19ページでは、友達と一緒に音楽に合わせて体を動かす活動、23ページではつくったリズムを友達とつなげてリレーをする活動、45ページでは、曲のおもしろいところを言葉で伝え合う活動、46、47ページでは友達と交互に歌う活動など、協働的な学びを促している。70、71ページでは、どの学年にも「ショートタイムラーニング」が配列され、低学年から歌を通して外国語に親しむことができるようになっている。2年生では、35ページの「音楽のもと」に示してある音楽の要素と関わらせながら、身の回りの音に親しむことができるようになっている。40、41ページの「夕やけこやけ」では、歌詞の情景に合った写真を用いて、曲想をつかみやすくしている。また、二次元コードの横に「見る」「書く」「知る」「きく」のマークが掲載されており、演奏動画を繰り返し見たり、楽譜を見ながら鑑賞曲を聴いたり、ワークシートをダウンロードしたりできるようになっている。

次に、教育芸術社である。1年生の教科書の21、22ページを開いていただきたい。学習活動に「見つける」「考える」「歌う・演奏する・つくる」のマークが示されており、活動の目標が明確になり、児童の主体的な学びを促している。また、活動の手順やヒントが吹き出しで示されており、表現を工夫したり、聴き深めたりしやすくなっている。23ページ「はくにのって、友達と一緒にリズムで遊ぶことができたかな」のように、各題材の終末には振り返りの視点が示されている。32、33ページでは、教室の中で聞こえてくる音を教材化しており、身の回りの音を言語化し、身の回りの音に親しむことができるようになっている。27ページのリズム譜や50、51ページの図形楽譜は、色や形が工夫されており、視覚的に分かりやすくなっている。また、二次元コードがほとんどのページにあり、曲全体を聴いたり、音楽をつくって再生したりすることができるようになっている。

どちらの教科書もそれぞれよさがあるが、協働的な学びの場面が多く、友達と気持ちを合わせて音楽表現をしたり、いろいろな感じ方や考え方に接したりすることで音楽活動の楽しさを体験することができる。鑑賞の活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりを分かりやすく理解することができる。身近な音とのつながり、他教科とのつながり、日本の四季や伝統文化とのつながりなど、生活や社会の中の音や音楽との関わりを重視している。という点で、教育出版社が湖西市の児童にとって適していると思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(菅沼委員) 現在、使用している教科書は、教育芸術社であると思うが、使っていて不都合があるということか。

(「音楽」説明員) そうではない。共通して掲載されている曲などを比較し、2社にどのような違いがあるのかという点で研究した。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、音楽の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手多数)

(渡辺教育長) 挙手3名であるため、挙手多数である。よって、音楽の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、図画工作について報告を求める。

(「図画工作」説明員) 1・2年と5・6年の教科書を例に報告させていただく。

まず、開隆堂である。1・2上の4ページを開いていただきたい。内容面では、身に付けるべき3つの資質・能力に合わせたキャラクターを登場させ、めあてや学習の手がかりを分かりやすく提示している。全体を見ると、制作に取り組む児童の写真的が多く、表情もたいへん豊かで、これから学習に取り組む児童の意欲を高めることが期待できる。1・2下の40、41ページを開いていただきたい。組織・配列の面では、就学前教育からのつながりを意識したページや身近な材料や自然とのかかわりを大切にした造形遊びが多く設定されている。湖西市内の学校も、周りに豊かな自然が多いため、このような題材を活用できると思う。高学年では、中学校の美術科との継続を意識し、児童が親しみを感じやすい美術作品や生活を豊かにする造形や伝統の技の鑑賞のページが充実している。また、「あわせてまなぼう」として生活科や算数科、国語科など、他教科と合わせた活動が可能となっている。発達段階への配慮の面では、安全に活動するための留意点や道具の使い方を、動画や画像として低学年にも分かりやすく提示している。どの学年にも「タブレット端末を使おう」のページがあり、発達段階に応じたタブレットの有効な活用例が紹介されている。

次に、日本文教出版である。1・2上108ページを開いていただきたい。内容面では、育成をめざす資質・能力が「3つの学習のめあて」として題材ごとに提示されている。多様な児童作品が掲載されており、発想や構想を広げることができるように工夫されている。高学年では、陶芸作品を家庭で使う様子を掲載し、作品が生活を豊かにすることが意識できるよう工夫されている。組織・配列の面では、低学年においては、児童の興味をひく造形遊びが多く掲載されている。6年間を通して、他教科や特別活動、SDGs等と関連している題材が多数掲載されている。また、一つの題材を見開きで掲載したページが多く、制作意欲が高まるよう工夫されている。発達段階の配慮の面では、学年に応じたタブレットなどの端末を活用した実践例が具体的に紹介されており、QRコンテンツは多様な子供の特性に配慮されている。また、教科書が見やすく読みやすいよう、フォントや文字の大きさも学年ごとに調整されている。

どちらの教科書もICT活用による個別最適な学びを意識しており、授業の質を高める動画や画像を見ることができるよう工夫されている。また、身近な素材を使用し、各校の実態に応じて安全に取り組むことができる配慮がされた優れた教科書であると思う。その上で、児童がいきいきと主体的に制作に取り組めるかという点を重視し、対話的で深い学びや個別最適な学びという視点で考え、湖西市の児童にとって開隆堂が最適であると考えた。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(菅沼委員) 先ほど報告にあったように、開隆堂は、写真の子供たちがマスクを取っていることが印象的だった。

(「図画工作」説明員) 造形遊びの楽しさが伝わるので、大切だと思う。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、図画工作の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、図画工作の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

午後3時50分休憩

午後4時00分再開

(渡辺教育長) 休憩を解いて、会議を再開する。

続いて、家庭科について報告を求める。

(「家庭科」説明員) 両教科書とも、学習指導要領に示されている「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」という小学校家庭科の目標達成に向けた内容構成になっており、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図ることのできる掲載内容となっている。また、各内容・項目において、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善していくことができるよう構成されている。

まず、東京書籍である。4ページを開いていただきたい。それぞれの題材において、ステップ1「課題発見」ステップ2「課題解決・実践活動」ステップ3「評価・改善」という学習の進め方で構成されている。21ページの「いつも確かめよう」では、活動前に手順や注意事項、安全面などについて確認することができる。これにより、児童は明確な目的をもって学習に取り組み、実践的な態度を養うことができる。また、33ページには、他教科や中学校の学習内容との関連を示すマークが明示され、教科相互に関連付けた学習や発展的な内容を取り上げた学習が可能となっている。113ページでは、中学校の技術・家庭分野とのつながりが示されている。さらに、33ページでは、デジタルコンテンツを示すマークが明示されているため、個に応じた動画での学習が可能となっている。

次に、開隆堂である。20ページを開いていただきたい。各題材が日常生活から課題を見いだす問い掛けから始まっており、導入にフォトランゲージの手法を用いていることもあり、児童が学びの必然性を実感できるように思考の流れが配列されている。また、18ページのように新学習指導要領に示されている「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるきっかけとなる事柄が記載されており、見方・考え方を生かした学びを積み上げることができ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を養うことにつながると考える。そして、この教科書の大きな特徴としては、ほとんどのページの下に豆知識が掲載されている。19ページのように、QRコードで必要に応じて動画が確認でき、児童の個別課題に対応することが可能となっている。

両教科書とも、児童に受け入れられやすい工夫がされ、子供たちの主体的な学びに資することができると思われる。その中でも、学びに必要とされる情報が精査され、学びの質を高めることができる構成が工夫されている開隆堂が、湖西市の児童にとって適切だと考える。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、家庭の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、家庭の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、保健について報告を求める。

(「保健」説明員) どの教科書も、学習指導要領の目標と内容がもれなく指導できるよう、単元構成や教材配列に工夫や配慮がなされている。児童が意欲をもち、学習活動に取り組めるように挿絵、資料、写真等が豊富に掲載されている。6年生の小単元「感染症予防」を例に挙げて説明させていただく。

まず、東京書籍である。49ページでは「1 気づく・見つける」「2 調べる・解決する」「3 深める・伝える」「4 まとめる・生かす」の4つに分類されており、各項目は4ページで構成されている。児童にとって、学習の流れが把握でき、授業も

スムーズに進められる構成となっている。また、50ページのように、重要な語句、キーワードを用いてまとめを書く活動が1単位時間ごとに設定されており、それらを書き込むスペースも十分に確保されているため、基本的な知識・技能の定着を図ることができるよう配慮されている。さらに、52ページのように、1単位時間の最後の資料として、今日的な課題に柔軟に対応できる資質・能力を身に付けられるよう「スキル」や「はってん」として記載されている。

次に、大日本図書である。41ページを開いていただきたい。各単元の最初に、見開きで学校生活や地域の生活でのイラストによる学習ゲームが組み込まれ、児童自ら学習課題を見つけ、問題意識をもてるようになっていく。48ページには「もっと知りたい！」のコーナーを設け、新型コロナウイルスやエイズ等の健康・安全に関する今日的な課題が多く取りあげられ、興味を高めたり、理解を深めたりすることができるよう配慮されている。

次に、大修館である。45ページのように、単元の最初に、著名人とキャラクターの会話から、これから学ぶ保健の学習に見通しをもつことができるよう配慮されている。50ページのように、本時に関わる動画やクイズに取り組むことができる二次元コードがあり、児童の学習の手助けとなるよう配慮されている。

次に、文教社である。55ページ「もう一歩先の自分へ」では、理解したことを自分の生活とつなげ、実践化することができる内容となっている。また、各単元の終末には、81ページのように「わたしの〇〇宣言」があり、学習事項を生活に活かそうとする態度を育む工夫がされている。

次に、光文書院である。39ページのように、各単元の最初に、イラストと会話が盛り込まれた4コマ漫画で単元の予告がされており、児童が共感的に受け止められる内容になっている。44ページ「学んだことを生かそう」では、学んだことを自分の生活にどう生かしたいかを考える問いが設定されている。また、43ページのように、「まめちしき」や他学年の学習内容や他教科とのつながりを意識した内容があり、より広い見方で考えることができたり、教科横断的な学習を意識したりすることができる。

最後に、学研である。55ページ「かがくの目」のコーナーでは、視覚的に科学的な理解ができるよう配慮されている。また、56ページのように、学校医やスクールカウンセラーなど、専門的な立場の方からの一言が載っている。学習の振り返りでは、具体的な場面を取り上げたり、これからの生活に生かすことを考えたりして、実践的に理解できるように工夫されている。

それぞれの教科書に特色があるが、保健の授業は、体育授業の中でも限られた時間での指導のため、内容や資料の量などの精選が求められる。「主体的・対話的で深い学び」を考えたとき、課題発見・追求・まとめと、いう各過程での進め方、内容・資料の量が適量である東京書籍の教科書が、湖西市の児童にとって最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(山下委員) 大日本図書5・6年の8、9ページを開いていただきたい。心の健康「体と心をほぐしてみよう」では、体の動かし方の写真が載っていて分かりやすく、自分自身にも参考になった。

(「保健」説明員) どの教科書もQRコードが載っており、動画が充実している。東京書籍は、教科書に書き込める場所が多く、先ほど報告したように、体育授業の中の限られた時間で保健を指導することを考えると最適だと考えた。どの教科書もそれぞれに良さがあるが。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、保健の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、保健の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、外国語について報告を求める。

(「外国語」説明員) 6社について調査研究を行った。6社とも、主たる教材としての内容を備えており、その内容が学習指導要領の教科の目標を達成するために適切であり、また、教材の組織や配列・分量において、児童の発達段階等が十分に考慮されていた。これらのうち評価が高かったのは、東京書籍、開隆堂、光村図書だった。6年生の教科書を例に報告させていただく。

まずは、東京書籍である。教科書とともに、身に付けたい単語や大切な表現の学びの助けとなる別冊の「My Picture Dictionary」が備えられている。教科書は、A4版サイズを採用しており、UnitごとのSounds and Lettersをはじめ、書く活動にも無理なく記入できるスペースが多くある。意味あるイラスト、写真等がバランス良く配置されている。4、5ページの目次に学ぶテーマが示されており、1年間の学びを概観できるようになっている。5年生では、自分のことから地域や日本のことへ、6年生ではさらに舞台を世界へと広げ、児童の発達段階に合わせた内容構成となっている。各UnitはStarting Outで単元の内容に親しみ、Your Turnで内容の定着を図り、Enjoy Communicationで伝え合いの活動を楽しみ、Over the Horizonで世界を広げる内容の4段階となっている。これらUnitが8つあり、さらに学びを確かめるためのCheck Your Stepsから構成されている。各Unitの学習では、冒頭にOur goalで目標が示されており、学習の見通しをもつことができるようになっている。学んだ結果、何ができるようになるのかを、イラストやQRコードの学び方動画によって確認することができようになっている。

次に、開隆堂である。A4サイズが採用されており、単語にその意味を表すイラストを添えたり、活動のイメージが湧くように図版や写真を配置したりするなど、学習の助けとなる図版や写真が効果的に用いられている。また、別冊の「Word Book」が学年ごと1冊備えられています。巻末には、Can Doチェックが単元ごとに設けられており、1年間の学習の見通しがもてるとともに、単元ごとの振り返りが確実にできるレイアウトとなっている。1時間1ページの構成が基本となっており、無理なく学習が進められるように配慮されている。教科書のページをめくると、右上に単元の時数が表示されているので、学習の見通しが立てやすくなっている。6、7ページの目次を開いていただきたい。目次を見るだけで、単元のゴールが分かるように色付けられたデザインになっている。各レッスンでは、見開きごとにもめあてが示されているため、児童と指導者が目指す姿を共有することができる。毎時間、Let's tryやActivityなどの言語活動を設定することで、児童が楽しみながら学べるようになっている。

続いて、光村図書である。AB版になっている。どの単元でもHop!のページに、目的意識が明確な単元のゴールが示されていて、Stepごとに段階的に語句や表現を学習できる配列になっている。6、7ページの「教科書の使い方」では、1年間の学習の流れを概観することができる。また、8ページの「5年生でできるようになること(CAN DOリスト)」により、1年間の学習の見通しがもてるようになっている。78ページのように、英語の学びと他教科の学びをつなぐ場面も設けられており、英語と国語の共通点や相違点を考えさせ、学びを深められるような工夫がされている。文字の指導に関しては、児童の学ぶ意欲を大切にしつつ、つまづかないように段階を追って丁寧に慣れ親しむようにしている。34ページの「Alphabet Time」では、文字の読み書きの学習がスモールステップで系統的に学習できるよう工夫されている。83ページのようにSmall Talk、Plus One、Let's tryでは、単元で学習した語句や表現に既習表現を用いて伝え合う活動を行うことで、学習内容が定着させ、自分の考えや気持ちを伝える力を付けることができる。場面設定が無理なくされており、自分の思いを伝えるために相手意識を大切に活動した活動をUnitの中心に据えていると言える。

これらの3社のうち、特に書く活動に無理なく記入できるスペースが確保されていたり、別冊の「Picture Dictionary」が備えられたりして、効率的かつ効果的に学習を進めることが期待できる東京書籍が湖西市の児童に最もふさわしいとの判断をした。
以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(菅沼委員) 授業は、日本人の教師が指導するのであれば、ネイティブの英語の音声が聞ける方がよいと思う。

(「外国語」説明員) どの教科書も、音声教材が充実している。ネイティブの英語で録音・録画されたものを見たり聞いたりすることができる。

(菅沼委員) そのような音声教材は、授業の中でどのように使うのか。

(「外国語」説明員) 1人1台タブレットで使うこともあれば、大型モニターで映して、学級全体で使うこともある。

(菅沼委員) 音声教材の視点においても、東京書籍が最適だと考えたということでしょうか。

(「外国語」説明員) はい。特に、東京書籍は、Let's ChantsやLet's singで、児童にとって分かりやすく、言い慣れしやすい内容になっている。

(渡辺教育長) 現在、ALT (外国語指導助手) は小学校の授業に、どのくらいの頻度で入っているのか。

(「外国語」説明員) 学校によって違いはあるが、高学年では、だいたい2時間に1回程度入っている。

(渡辺教育長) ALTの補助と教科書の音声教材を併用しながら、授業をしているということである。

(西川委員) 小学校では、英語に慣れ親しみ、その後中学校につながっていくと思うが、現在中学校で使っているのは、どちらの発行者のものか。

(「外国語」説明員) 東京書籍である。

(西川委員) 児童にとって、小中学校のつながりがもちやすく、理解しやすいと思う。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、外国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、外国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、道徳について報告を求める。

(「道徳」説明員) 最初に、どの教科書にも学習指導要領に示されている内容項目を指導できるよう、教材の配列の工夫や配慮がされており、児童が興味や学習意欲をもって授業が展開できるように、挿絵や写真などを掲載している。また、QRコードにより、ICTを有効活用できるようにしている。次に、各教科書の特色について、報告します。1・4・6年の教科書を例に報告させていただきます。

まず、東京書籍である。資料の前に、教材から考える価値の提示や投げかけの言葉があることで、考えることや学ぶことが分かりやすく、めあてとして活用できるよう工夫されている。QRコンテンツが充実しており、児童の特性に対応した学びを支援できるようにしている。

次に、教育出版である。教材の最初に、考える価値の問いかけが示され、学びの見通しが立てやすくなっている。本文はフィクションが多く、児童の日常に近い出来事として考えることができるように配慮されたものとなっている。

次に、光村図書である。導入の発問は答えやすいものとなっている。学び方や反応の仕方、話し合いのコツが示され、授業の進め方や流れをつかみやすくしており、主体的な学びができるようサポートしている。3つの発問により、道徳的価値に迫るとともに、「つなげる」では、学びを深めたり広げたりできるよう工夫している。

次に、日本文教出版である。教材は、フィクション、ノンフィクション、昔話など多様で、教材への関心を高める工夫をしている。導入では、主題に関わる問題意識をもたせる工夫があり、あらすじや登場人物を提示することで、本文の内容を理解しやすくしている。別冊の道徳ノートでは、学習の記録から自己の成長を振り返ったり、児童の自己評価をもとに、指導と評価の参考としたりすることができるようにしている。

次に、光文書院である。教材の導入では問題意識をもたせる問いがあり、また、展開、終末においては、児童の思考を促し、考えを深める発問が用意されている。思考ツールを示すことにより、考えを深める手立てとして活用できるようにしている。教材が40種類と豊富で、子供の実態に応じて選択して扱うことができるよう配慮されている。

最後に、学研である。唯一冒頭に主題名の提示はないが、児童が主体となって課題を見つけながら主題に迫り、教師とともに教材を通して、多角的・多面的に道徳的価値についての考えを深めていくように工夫されている。「心のパスポート」「深めよう」のページにおいても、自己を見つめ、これからの自分がどうあるべきかを考える発問があり、「考える道徳」の授業づくりができるようにしている。また、問題解決的な学習や役割演技等の体験的な学習を通して、問題に気づき、他と話し合いながら考えを深め広げる「議論する道徳」についても配慮している。

それぞれの教科書には良さがあるが、湖西市の道徳の授業は、児童の主体性を重視し、児童が課題を見つけ解決していくことで、道徳的価値の理解、実践力を高めていくことを第一にしたいと考えている。読み物の種類が多く、様々な観点や視点で道徳的価値について考え、実践力につなげることができるよう工夫され、「考え、議論する道徳」に最も適している学研が、湖西市の児童にとって有効であると思う。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言するように。

(菅沼委員) いじめの定義が変わり、教師から教えることが難しくなっていると思うが、思いやりの観点で比べてどうだったか。

(「道徳」説明員) 6社とも、それぞれ安心・安全、情報モラル、命、いじめ等の教材を扱っているが、学研は最重要テーマを命としており、いじめを生まない力を意識した教材が全学年共通して設定されていた。その点からも、学研が最適であると考えた。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、道徳の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、道徳の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(渡辺教育長) 最後に、本日配布した「別冊 教科用図書採択資料」は、この後、回収させていただきます、事務局で処分させていただきます。また、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。本日の議事録についても、教科用図書の採択期限である8月31日を過ぎた後に公表することとする。

それではここで、暫時休憩とする。

(教科用採択資料の回収・説明員退席・傍聴者入室)

(教育長) 休憩を解いて、会議を再開いたします。
本日の案件については、これをもって全て終了した。
これにて、令和5年7月湖西市教育委員会定例会を閉会する。

閉 会 午後4時33分終了